

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) **公開特許公報 (A)**

(11)特許出願公開番号

特開平8-27033

(43)公開日 平成8年(1996)1月30日

(51)Int.Cl.⁶

A 61 K 47/10
9/20

識別記号

府内整理番号

L
A

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全3頁)

(21)出願番号 **特願平6-184148**

(22)出願日 平成6年(1994)7月14日

(71)出願人 000226404

日研化学株式会社

東京都中央区築地5丁目4番14号

(72)発明者 増山 勇

埼玉県蓮田市椿山4-21-4

(54)【発明の名称】 エリスリトール含有固形剤

(57)【要約】

【目的】 エリスリトールを医薬品添加剤として固形剤の製造に使用する。

【構成】 薬効成分とエリスリトールを均一に含有してなる錠剤、カプセル剤、丸剤、顆粒剤、散剤、トローチ剤、エキス剤などの固形剤。

【効果】 エリスリトールが有する、爽やかな甘味性、微粉末形成性の良さ、低吸湿性、安定性の良さ等の性質により、本発明にかかる固形剤は、ほとんど吸湿せず非常に安定でかつ服用し易い。

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】薬効成分とエリスリトールを均一に含有してなる固体剤。

【請求項2】固体剤中にエリスリトールを1-99重量%含有してなる請求項1記載の固体剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、エリスリトールを賦形剤、防湿剤、安定化剤、等の医薬品添加物として用いてなる、錠剤、カプセル剤、丸剤、顆粒剤、散剤、トローチ剤、エキス剤などの固体剤に関する。 10

【0002】

【従来の技術】一般的に経口医薬品は、投与後消化器官に到達して溶解後吸収され、生体内に分布して薬効が発揮されるものである。経口投与のために、錠剤、カプセル剤、散剤、顆粒剤、トローチ剤等の固体剤が考え出され、これら固体剤を作成したり、機能性を高める目的で、多種多様の医薬品添加物が開発されてきている。錠剤、顆粒剤などの固体剤の製造には、従来から多種類の添加剤がその目的に応じて用いられている。これらの添加剤は、有効量が少ない薬物や打錠など製剤化に適しない薬物の增量や賦形性を目的としたり、塩酸チアミンなどの様な吸湿性の高い薬物の防湿化や安定化を目的としたり、イブプロフェン、シメチジン、テオフィリン、キニーネなどの様な苦みを有している薬物や、コレステラミンなどの様に臭いを有する薬剤の、嗜味、嗜臭などの目的で広く使用されている。

【0003】これらの添加剤のうち、白糖、果糖、ブドウ糖、乳糖、マルトース、デキストリンなどの糖類の添加剤が、化学合成品とは違い安全性での問題点が殆どなく、結晶や粉末で取扱い易く、しかも安価であるため、頻繁に使用されている。しかしながらこれらの糖類はそれ自体吸湿性があったり、アミノ酸、タンパク質系の薬物との共存下で、酸、アルカリ、熱により着色や成分の変化を起すなどの問題点を有している。さらに、う蝕原性があり、しかもカロリーが高い等、健康上からも好ましくないなど、使用に制限を受けざるを得ない。

【0004】糖類に代わる添加剤として、グリセリン、ソルビトール、キシリトール、マルチトール、マンニトールなどの糖アルコールがある。これらの糖アルコールは還元基を持たないので、アミノ酸やタンパク質系の薬剤と通常褐変を起こす心配はなく、またう蝕原性もない。しかし、ソルビトールやマルチトールなどの糖アルコールは褐変は起こしにくいが、ショ糖等に比べて吸湿性が高いという問題点がある。吸湿性が高いと微粉末での機械適性に問題が残り、また錠剤など製剤の保存性にも影響を与えるなどの、好ましくない問題点をかかえている。また、グリセリンは液状であるため、固体剤の製造には適さない。さらに、これらの糖アルコールは摂取しすぎると下痢を起こし易く、使用の制限を受けざるを

2

得ない。吸湿性が低い糖アルコールとして唯一マンニトールがあり、極めて低い吸湿性が示されている。しかし、マンニトールは水への溶解性が低すぎる上、価格が高いという欠点を有する。

【0005】従来、エリスリトールを薬剤に使用した例としては、固体薬剤の表面にメソ-エリスリトール（エリスリトール）を主成分とする被覆材の被覆層を形成せしめてなる被覆固体薬剤（特開平1-268628）及び薬剤成分をエリスリトールの結晶及び／又はしゅう晶間に含有せしめてなる薬剤成分固定化組成物（特開平1-268627）が知られている。しかしながら、今まで、薬物とエリスリトールの結晶又は粉末を均一に混合した後、錠剤等の固体剤にした例は知られていない。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、アミノ酸やタンパク質系の薬物と褐変を起こさず、吸湿性の低い微粉末の形態になり易く、下痢を起こし難く、適度な水溶性を併せ持ち、且つ非う蝕原性と低カロリー性を保有する、医薬品添加物を見い出すことである。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明者は、鋭意研究の結果、これらの性質、特徴を併せ持つ素材として、エリスリトールを見い出すに至った。エリスリトールは皮膜形成性、微粉末形成性、低吸湿性及び易結晶性等の性質を併せ持ち、適度の溶解性を持っている。この様な性質は、固体剤を製造する際の、賦形剤、防湿剤、安定化剤、糖衣剤などの医薬品添加物としての機能を十分に持ち合わせており、特に微粉末形成のし易さ、及び低い吸湿性は、既に医薬品添加物として使用されている他の糖や糖アルコール類を凌ぐものである。すなわち、本発明は、薬効成分とエリスリトールを均一に含有してなる固体剤であり、更に詳しくは、固体剤中に薬効成分及び1-99重量%、好ましくは5-95重量%のエリスリトールを均一に含有してなる固体剤である。本発明の固体剤は、従来から使用されている糖類又は糖アルコールの代わりに或はその一部としてエリスリトールを用いて常法により製造される。この際、医薬品添加物としてエリスリトールだけを使用してもよいが、一般には、他の賦形剤や防湿剤、安定剤と併用されることが多い。

【0008】本発明におけるエリスリトールとは、4価の糖アルコールで、近年、食品市場を中心に出回り始めた超低エネルギー甘味料であり、分子量122、融点119℃の結晶あるいは粉末で、水に溶解し、質の良い甘味性を有し、ソルビトールなど他の糖アルコールと比較して下痢を起こし難く、非う蝕原性であり、アミノ酸、タンパク質系の薬剤と褐変反応を起こさない糖質系の素材である。エリスリトールは自然界に、梨、ブドウ、スイカ、メロンなどの果実類をはじめとして、地衣類、キノコ類などに存在し、ワイン、清酒、醤油などの発酵食品にも含まれており、これまでにも食品として食経験が

ある、極めて安全性の高い素材である。

【0009】エリスリトールは経口で摂取された場合、大部分が小腸から吸収され、全く代謝を受けずに速やかに尿中に排泄されること、及び一部未吸収のものだけが大腸に達し、腸内菌による発酵を受けて短鎖脂肪酸になり、これが大腸から吸収されてエネルギー源になることが知られている。エリスリトールはソルビトールなどと同じ糖アルコールの一種であるが、他の糖アルコールと違い小腸から良く吸収されるので、大腸に達する量が少なく、浸透圧性の下痢が起き難い。下痢の起り易さは、通常ソルビトールの1/3~1/4であると考えられている。これに反してソルビトール等の他の糖アルコールは、小腸では殆ど吸収されずに、そのまま大腸に達するので、浸透圧性の下痢を起こし易く、さらに大腸で発酵を受ける量も多いので、その分エネルギー値は高くならざるを得ない。一方小腸で吸収されたエリスリトールは、生体で全く代謝を受けずにそのまま尿中に排泄されるため、全くエネルギーにならず、ごく僅かに大腸で発酵された分だけがエネルギーになるため、有効エネルギー値は極めて低く、0.3kcal/g以下と報告されている。

(食品化学新聞社発行、別冊フードケミカル-4、甘味料総観、p. 188-194)

エリスリトールは物理的、化学的に安定であるばかりでなく、上記の如く生体に投与されたエリスリトールは殆ど利用されずに体外に排泄され、しかもこの際生体に全く悪影響を及ぼさないので、生体に影響を及ぼさないことが求められる医薬品添加物として、非常に好ましい。

【0010】エリスリトールは極めて吸湿性の低い微粉末になるため、主薬である医薬品粉末との混合性に優れており、錠剤、散剤、丸剤、顆粒剤、トローチ剤、エキス剤などの固体剤を製造する際の賦形剤や、防湿剤、安定剤として最適である。とりわけ錠剤製造における打錠の際の機械適性が良好であり、賦形剤として優れた効果を発揮する。試験例1に示す通り、エリスリトールを賦形剤として製造した錠剤は非常に吸湿性が低く、安定性に優れている。

【0011】

【実施例】以下に、実施例、参考例、試験例をあげてさらに詳細に説明するが、本発明はこれらの例により限定を受けるものではない。

実施例1

テオフィリン1kg、エリスリトール2.5kg、結晶セルロース0.5kg、ステアリン酸カルシウム0.02kgを加え、混合機内で5分間混合粉碎した後、打錠機を用いて1錠200mgに打錠して錠剤を製造した。

参考例1 (対照製剤の製造)

エリスリトールの代わりにマルチトールを用い実施例1と同様にして錠剤を製造した。

【0012】実施例2

バルプロ酸ナトリウム1600gとエリスリトール2000g及びアラビアガム160gを充分混合した後、5%ヒドロキシプロピルセルロースのエタノール溶液650gを加えて練合する。この練合物を60°Cの熱風乾燥機にて乾燥後、1000μmのふるいにより整粒して顆粒剤を製造した。

実施例3

10 実施例2で製造した顆粒剤を、ゼラチンカプセルに充填してカプセル剤を製造した。

【0013】実施例4

エリスリトール920gとアラビアガム70gに、アズレンスルホン酸ナトリウム10gを加えて混合機にて充分に混合した後、打錠機を用いて圧縮成形してトローチ剤を製造した。本トローチ剤は冷感とさわやかな甘味を持ち、優れた服用感が得られた。

実施例5

20 リン酸ジヒドロコデイン50gにエリスリトール4950gを加え、混合機にて均一によく混和した後、500μmのふるいを通過させて散剤を製造した。

【0014】実施例6

塩酸キニーネ400gにエリスリトール600g及びヒドロキシプロピルセルロース50gを添加して充分に混合した後、成丸器を使用して丸剤を製造した。

実施例7

30 ロートコン粗末200gを35%エタノールを浸出剤として、パーコレーション法に準じて浸出する。浸出液を減圧下に濃縮した後、エリスリトール200gを添加して良く混合し、50°Cの温風で乾燥して、乾燥エキス剤を製造した。

【0015】試験例1

実施例1及び参考例1で製造した錠剤を室温中で相対湿度85%の条件下に7日間保存して、吸湿による重量変化を測定した。その結果、エリスリトールを使用した錠剤の重量変化(吸湿率)は0.15%であり極めて吸湿性が低かった。一方、対照製剤であるマルチトールを使用した錠剤の増加率は6.8%であった。

【0016】

40 【発明の効果】エリスリトールが有する、爽やかな甘味性、微粉末形成性の良さ、低吸湿性、安定性の良さ等の性質により、本発明にかかる固体剤は、ほとんど吸湿せず非常に安定でかつ服用し易い。更に、本発明にかかるエリスリトールは、打錠、圧縮等の機械適性に優れているため錠剤等の製造が容易である。